



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

口腔内写真の必要性

インプラント歯科 科長 尾関 雅彦

“よい歯医者の見分け方”という特集が先日、ある民放テレビ局のバラエティー番組で放映されていました。職業柄捨てておけないタイトルにひかれて見ていると、“よい歯医者に共通していること”として、以下のことを挙げていました。

1. 時間をかけて患者さんによく説明してくれる
2. お口の中をよく清掃してくれる
3. お口の中の写真(口腔内写真)をよく撮る

なるほどこれら3つは、患者さんに満足して頂ける丁寧で良質な歯科治療を行ううえでとても大事なことであり、バラエティー番組なのにいい勘所を押さえていると頷かされました。1番目は、インフォームドコンセント(患者さんへの説明と同意)として知られているように、患者さんと歯科医師との信頼関係を築き、その後の歯科治療が円滑に行われるためにもとても重要です。また2番目の、治療期間中に歯石や歯垢を取り除いて口腔清掃をすることは、残存歯の歯周病予防や虫歯予防に不可欠であり、さらにインプラントなどの歯科手術における術後感染を防止するためにも欠かせません。ところで3番目の口腔内写真の撮影については、歯科治療を受ける患者さんにとってあまり馴染みがないことと思われるので、少し解説させていただきます。

お口の中の病状が軽くて簡単な歯科治療で容易に治ってしまう場合には、患者さんの口腔内写真を撮らなくてもよいかもしれません。しかしながら不快症状や病状が重症で、複雑な治療法や

長期間の治療を必要とする場合は、患者さんの口腔内写真の撮影は不可欠となります。また審美性が要求される前歯部・小臼歯部の修復治療(補綴治療)や、歯並びを整える矯正歯科治療においても口腔内写真として記録することはとても重要です。



初診時(治療前)、治療途中および治療後に分けて口腔内写真を撮影することにより、正確な診断と適切な治療計画が立てられ、治療の有効性(妥当性)や治療結果を客観的に判断することができますようになります。治療終了時には予想できなかった口腔内の変化や疾病が数年後に生じた場合に、過去の口腔内写真と比較することにより、原因を究明して患者さんにとって最も有益な対応がとれるようになります。このように患者さんのための良質な歯科治療を行ううえで、口腔内写真は非常に重要な診査記録となります。



図1 初診時



図2 インプラント埋入後



図3 治療後



図3 治療後

インプラント歯科 紹介

2010年3月に放送されたNHKのためしてガッテンで「ネジの極意」が取り上げられ、その冒頭でネジは40万種類以上あり、その中にはチタン製のネジもあり、顎の中に埋め込む歯科インプラントとして使われていることが紹介されました。

歯をなくした場合にしばしば、インプラントを土台とした修復(補綴)処置が行われるようになっていますが、インプラントを用いた治療を成功させるには、インプラント体を顎骨内に埋入する際にインプラント体が顎骨にしっかりと固定されることが重要です。

当科ではインプラント体の顎骨への確実な固定法や固定力についてユニークな研究をしています。ネジ型(スクリュー型)のインプラント体を模擬骨に埋入していく際の抵抗値(埋入トルク値)を計測し、インプラント体の長さや形状(テーパー型、ストレート型)の違いが顎骨への固定法や固定力(トルク値)に及ぼす影響を調べています(図1、図2)。

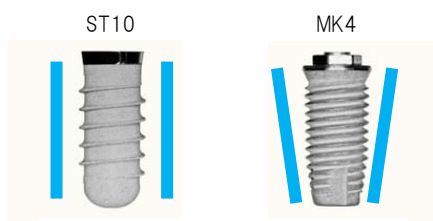


図1. ST:ストレート型インプラント体
MK4:テーパー型インプラント体

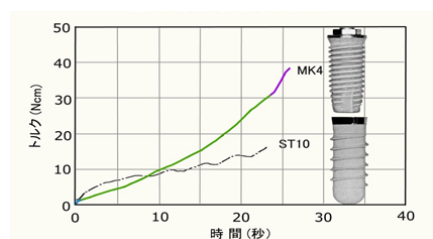


図2. インプラント体の形状の違いと模擬骨への固定力(トルク値)
固定力(トルク値)は、ストレート型のST10と比較しテーパー型のMK4の方が高かった。

これらの研究から得られた結果は、手術時に最適なインプラント体を選択するための有用なデータとなっており、インプラント治療を受ける患者さんのために非常に役立っています。

インプラント歯科 助教 山口葉子

インプラント歯科では、歯を失ったあとの顎骨内にインプラント体を植え込み、被せもの(冠)やブリッジの支柱にしたり、入れ歯の支えにすることで、患者さんにより快適な日常生活を送って頂く手助けをしています。

来院される患者さんは20代から80代までと幅広く、歯の喪失部分に対する修復(補綴)処置として、ブリッジのために健康な歯を削ることは望まないとか、取り外し式の入歯では我慢できないといった様々なお悩みを持つ患者さんに対して、安心安全で満足して頂けるインプラント治療を心掛けています。

インプラント手術を受けられるすべての患者さんに対して、麻酔科医やかかりつけ医と連携して全身状態を診査し、また顎骨のCT検査やシミュレーション手術を術前に行うことにより、安全で適切なインプラント埋入手術を行っています。(図3~6)

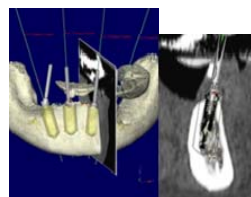


図3. シミュレーション手術
(パソコン上でのシミュレーション)

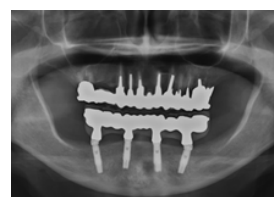


図4. 下顎のインプラント治療後



図5. 手術前の口腔内写真



図6. 治療後の口腔内写真

ところで、こんにちの歯科インプラントは欧米発祥の治療法なので、体格骨格や食習慣が違う日本人の患者さんにも適するような対応が必要なこともあります。当科では、骨格が小さく骨質が軟かい日本人の患者さんに対して、移植手術は行わずに低侵襲性にインプラント埋入手術を行うことも得意としています。

インプラント歯科 助教 関谷弥千

皆さんの中には、親知らずの抜歯をしたいけれど、周りの方から「大変だった。腫れたよ。」など聞いて、抜くことを躊躇されている方もいると思います。親知らずは現代人ではまっすぐ生えてくることが困難で横向きに生えている事が多い歯です。このような歯の周囲は汚れがたまりやすい環境となり、放っておくと周りの歯を虫歯にするなどの悪影響を与えたり、細菌感染で顔の形が変わるくらい腫れてしまうこともあります。このように歯本来の機能を果たせない横向きの親知らずは、抜くことでお口の中の健康を保てる場合があります。しかし、この横向きに埋まっている親知らずを抜歯する場合には、歯茎を切ったり、歯を削らないと抜けません。また、外科的な治療を行うと、痛みや腫れというものはある程度は予想されます。この点が、歯を抜くことを躊躇される理由ではないでしょうか。

私は、口腔外科に入局した当初、患者さんの誰もが好まないこのような外科的な治療を、より丁寧かつ確実に技術を学ぼうと上司に必死に食らいついておりました。しかし、程なくして上司にかけられた言葉により、診療に必要なことは、技術の習得とともに最も重要なことがあると再認識させられました。そして今では私の歯科医師としての地盤となっております。それは、「技術の熟練は当たり前、患者さんには治療を理解してもらうのではなく、納得してもらいなさい。」というものでした。「理解」とは物事が解っただけのこと。「納得」は物事をわかり、さらにその事に同意すること。以来、私は日常の診療において、患者さんに対して常に治療や手術の必要性、方法などを理解するだけでなく、納得するまで説明するように心がけています。

口腔領域に異常や障害をきたした場合には、食べる、会話をするなどの機能が障害されることがあります。また、審美的な障害があると、患者さんは精神にも大きな苦痛を受けることになります。このような場合も、納得のいく説明を行い、治療する

ことが、不安や痛みの改善や、形態や機能を回復し、患者さんの社会復帰をサポートできると確信し、研鑽を行っております。

また、口腔外科には当院の他診療科や地域の先生からのご紹介やご依頼を数多く頂いております。このような場合においては、患者さんだけでなく、ご紹介頂いた先生とも治療内容に関して十分に検討し、お互いが納得のいく治療を行うよう、密に相談を重ね、かつ、スムーズに連携を取りあえる環境作りを心がけております。お陰様で、最近ではご紹介頂く患者さんも増えており、この「納得」する診療スタイルを受容して頂いてものと考えております。

今後も臨床家として患者さん重視の姿勢を堅持し、大学人として科学的根拠に基づくより良い診断、治療のために研究や診療を行い、これまでに得た知識と経験を生かし、また地域医療機関や関連各診療科と連携しながら、患者さん毎に最善の医療が提供できるよう努めて参ります。



各診療科の先生や研修医と大学公認フットサルサークルで、体力維持に努めています！

第7回 昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会報告

第7回になります昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が、平成27年10月21日(水)午後8～9時に昭和大学旗の台キャンパス1号館7階講堂で行われました。今回は、参加者より要望の多かった糖尿病や内分泌疾患と歯科に関するお話を昭和大学病院附属東病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 助教:森 雄作 先生に行って頂きました。演題は「歯科治療に注意が必要な内分泌疾患—糖尿病を中心に—」という日常遭遇する内分泌疾患のトレンドから、糖尿病の最新治療まで短時間の中で、分かりやすく紹介して頂きました。講演後には、インプラント治療と糖尿病という質問も会場から出て、参加者の関心の高さが垣間見られました。近隣の歯科医師会の先生がたも20名程度参加し、また学内関係者も50～60名程度集まり、大盛況の会となりました。日頃、疑問に思っている点を終了後も熱心に質問されていました。

この昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会

は昭和大学口腔ケアセンター城南地域連携協議会を中核とした医科歯科連携のチーム医療の促進を目指し、周術期口腔機能管理に係る地域連携に必要な知識の習得を目的として行っております。次回講演会は平成28年2月3日(水)午後8時より、昭和大学1号館 7階講堂にて行われます。ぜひ皆様多数の参加をお待ちしております。

昭和大学口腔ケアセンター長 弘中 祥司



ドイツ歯科医師団体の見学がありました

2015年11月9日(月)にドイツ歯科医師団体「BLZK」の歯科医師10名が患者ロボット「昭和花子2」を見学しました。ドイツからは、今年5月にもドイツ歯科医師団体「ZAK Brandenburg」が来訪され、その視察が大変好評だったようです。

矯正歯科 助教 二木 克嘉



編集後記

今年もいよいよ最後の月を迎えることとなりました。今年は皆様にとってどんな年だったでしょう？ 猛暑、豪雨、台風、地震、噴火と日本のあちこちで自然の脅威が牙をむいた一年だったような気がします。

一方、最近では日本ラグビーの活躍、体操日本男子チームの金メダル、浅田真央選手のカムバック、そして羽生結弦選手の圧倒的な世界最高得点樹立とスポーツ界は盛り上がりを見せてくれました。

若かりし頃はスポーツガイだった私は今年もメタボから脱却できませんでした。来年こそは必ずやと思いつつ、魔の忘年会シーズンに突入です。皆様もくれぐれも飲み過ぎ、食べ過ぎにはご注意ください。。

(K.T)